

原の茶屋周辺を巡る 地域講座



4月30日、スモモの花の甘い香りに包まれた原の茶屋周辺を、名取陽先生の案内で歩いてみました。明治の初め頃は原っぱだったこの辺り、松目区の人たちが諏訪の殿様から許可をいただき、お茶屋を出したのが原の茶屋の始まりとのこと。

富士見公園から透関の馬頭観音像を回り、三菱用地をぬけて白林荘へと散策しました。「自然（鳥や風と時間）がつく

った空間には安らぎがある。」との先生のお話に、自然と文化の融合した地域の良さを再発見！最後に白林荘で、原の茶屋にある明治天皇御膳水で入れたお茶をいただきました。



春の縄文体験学習

5月5日、井戸尻史跡公園で縄文時代の弓矢体験や首飾り作りが行なわれました。

弓は井戸尻周辺に自生するイヌガヤを使った手作りで、模型動物を的に実践。

首飾りは近くの山から採取したロウ石を砂岩や安山岩でおよその形に削り、泥岩でなめらかにした後、木板や皮で磨きをかけての工程を経て、2時間ほどで完成。同じ石でも削る角度で個性の違う作品に仕上がることを、体験を通して発見した子どもたちの輝いた顔が印象的でした。



▲ロウ石を磨く子ども達

ふるさとのみなさんへ 東都高原富士見会だより



橋 本 洋 子
西東京市
(富士見出身)

昭和十年、富士見の地に生を受け、きれいな空気の高原で、伸び伸びと育った私

結婚を機に東京に出ました。当時実家へ帰る汽車（今は電化されましたが）で、甲府を過ぎたあたりから車内

の人々の話し言葉が懐かしさを増し、「富士見が近くなつたな」と心はずませたものでした。今では使わないですが、「オメー、ほーずら、いいじゃん、ほーかい・・・」等耳慣れた言葉が飛び交い、つい笑顔でそちらへ目をやり、今でも

そうですが、昔にもどった私がいまは。今はすっかり都会化していますね。富士見駅へ降りると、目の前に入笠山、かつて登った山だ。山の色のきれいなこと、スズランの群生が目につく。

東を見れば小さい頃聞いた雪が降ると登り金魚、下り金魚の模様がでるハケ岳登ったことはないけれど、眺めていると元気づけられる山。大きなふとろに包まれ、ほっとする山がある。友達に自慢できるふるさとです。

保育の仕事をして二十五年、退職して今度は老人ホーム等でボランティア活動をしております。三味線に合わせて唄ったり踊ったり、南京玉すだれ等をしてお年寄りに楽しんでもらっています。お年寄りの手拍子、笑顔をもらうところからも元気が出てきます。これからも元気で人に喜んでもらえることをしていきたいと思っています。